

浪江町幾世橋地区

1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 営農再開地域における水稲・大豆・飼料作物の複合経営体としての収益確保
- 水田・畑地における大豆・飼料作物の輪作体系の構築
- 震災後の作付再開ほ場における大豆の安定収量確保



2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】
 (R6) 水稲：20.7ha、大豆：18.0ha、WCS用イネ：7.3ha、デントコーン：10.0ha
 (R7) 水稲：26.3ha、大豆：20.6ha、WCS用イネ：6ha、デントコーン：16.3ha
- 浪江町内でR2年度より営農再開後、R4年度から大豆栽培に取り組んでいる
- その他、R5年度よりWCS用イネやデントコーンなど、飼料用作物の栽培にも広く取り組んでおり、幾世橋地区の中心的な担い手組織

3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

<需要に応じた生産の取組>

- 県内で主に要望されている大豆品種「里のほほえみ」と「タチナガハ」を水田・畑地で栽培

<導入した農業機械、営農技術>

- 営農再開支援事業のリース事業活用により、飼料作物用のロールベラー、ラッピングマシン等を導入
- 前年から大豆連作したほ場、前年度麦WCSを作付したほ場、前年度デントコーンを作付したほ場における生育状況・収量の比較調査を実施



4 取組成果

<水稲、大豆、デントコーンの複合的な生産体系の実証>

■ R7年度、浪江町内の生産者として唯一、水田・畑地で大豆を20ha以上作付するとともに、デントコーン約16ha、WCS用イネ約6haと飼料用作物の生産にも大規模に取り組み、本地区における大豆・飼料作物を含めた複合的な大規模水稲経営モデルの可能性を示すことができた。特に大豆、デントコーンについては、作付開始から年々作付面積が増加傾向となった。

大豆、飼料作物の作付面積

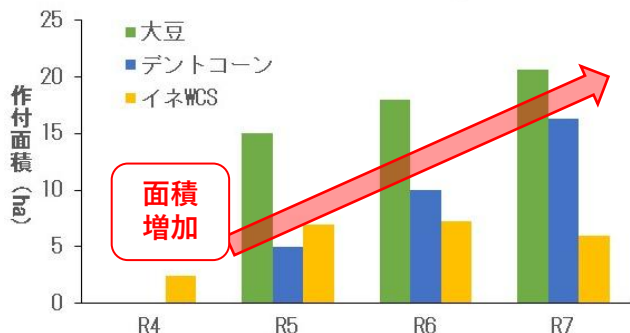


表 R7年度大豆、飼料作物の所得試算

品目		大豆	デントコーン
単収 (kg、ロール/10a)		79	7.6
販売 販売価格 (円/俵、ロール)		8,000	9,900
収入 計 (円/10a)		10,533	75,240
交付金 畑作物直接支払交付金		20,000	—
交付金 水田活用直接支払交付金		35,000	35,000
交付金 産地交付金 (県)		5,000	—
交付金 産地交付金 (町村)		2,000	1,000
収入計 (円/10a)		72,533	111,240
生産費 (円/10a)		49,023	75,854
所得 (円/10a)		23,510	35,386

5 残された課題

- 大豆の収量品質向上のため、適期播種、病虫害防除・難防除雑草等の対策を徹底する。
- 労力と収支に見合った水稲・大豆・飼料作物の適正な作付規模について検討する。